

第1部

東京2020

オリンピック・パラリンピック

競技大会 in CHIBA



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会と聖火リレー

1

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催

東京開催の決定

2013（平成25）年9月7日、アルゼンチンのブエノスアイレスで開かれた国際オリンピック委員会（IOC）総会において、2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市が東京に決定した。この決定時点において、東京都、（公財）日本オリンピック委員会（JOC）、IOCの3者により、各当事者が大会開催に向けて遵守すべき合意書である「開催都市契約」が締結され、東京は、1964（昭和39）年以來、56年ぶり2度目のオリンピック・パラリンピック開催都市となった。

開催都市契約を受け、2014年1月、大会開催に向けた準備や運営を行うため、東京都とJOCにより、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委

員会（東京2020組織委員会）が設立され、JOCや日本パラリンピック委員会（JPC）、東京都、政府、経済界、その他関係団体とともに、オールジャパン体制で大会開催への準備が進められることとなった。

なお、東京2020組織委員会が開催都市契約に加わることにより、東京都、東京2020組織委員会、JOC、IOCの4者で大会開催に向けての合意がなされた。

こうして東京開催へ向けて動き出した中、2015年2月、東京2020組織委員会は、大会までの準備業務を5年余りという期間で確実に進めていくため、「東京2020大会開催基本計画」を策定した。基本計画では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）の礎となる「大会ビジョン」が掲げられ、この大会ビジョンにおいて、招



開催都市を発表するジャック・ロゲ IOC 会長

写真：代表撮影／AP／アフロ



東京開催の決定を喜ぶ日本の招致委員会、招致アンバサダーのメンバー

© ZUMA Press／アフロ



東京2020大会の概要

東京2020オリンピック競技大会	正式名称	第32回オリンピック競技大会（2020／東京）
	開催期間	2021年7月23日（金・祝）～8月8日（日・祝） ※当初予定：2020年7月24日（金・祝）～8月9日（日）
	競技数	33競技339種目
	競技会場数	42会場（1都8道県）
	参加国・地域数	206カ国・地域
	選手数	11,417人
	東京2020パラリンピック競技大会	正式名称
	開催期間	2021年8月24日（火）～9月5日（日） ※当初予定：2020年8月25日（火）～9月6日（日）
	競技数	22競技539種目
	競技会場数	21会場（1都3県）
	参加国・地域数	163カ国・地域
	選手数	4,403人



大会ビジョンと大会モットー

大会ビジョン

スポーツには 世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。
2020年の東京大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、
「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」
を3つの基本コンセプトとし、
史上最もイノベティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

大会モットー

United by Emotion

世界は、間違いなく異なる国や人種や性や世代でできていて、
多種多様な価値観が存在する。
それが時として私たちを戸惑わせ、
距離を生じさせることもあるだろう。

しかし、その異なる私たちは、
アスリートの肉体や勇気や挑戦を共に目撃して、
共に心震わせ、笑い、泣き、拳をあげるのだ。

そう、人と人は明らかに異なり、しかし間違いなく同じだ。

ひとつの風景を共有し、体験をする。
そこで共に抱く感情が、壁の向こう側を想像する力になり、
互いを区別するものを超えてゆく力になる。
人は、時間と場所を共有することで共に生きる意味を見つけるのだ。
人間は人間がいる光景から未来への大事なことを知る。

致の際のスローガン「Discover Tomorrow ～^{あした}未来をつかもう～」を基に取りまとめた「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」の3つの基本コンセプトが示された。

また同年6月、東京2020大会の円滑な準備および運営に関する施策を総合的かつ集中的に推進するため、政府が「東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部」を設置し、同年11月に「2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施

策の推進を図るための基本方針」が策定された。基本方針では、この大会を日本再興の契機とすること、パラリンピック競技大会をオリンピック競技大会と一体的に運営することで障害者の社会参加の拡大を図り、日本全体で「夢と希望を分かち合う大会」にすること、次世代に誇れる有形・無形の遺産（レガシー）を全国に創出するとともに、日本が持つ力を世界に発信することなどの基本的な考え方や施策の方向性が明らかにされた。



東京2020大会のエンブレム、マスコット、メダル

東京2020組織委員会は、2015年に東京2020大会のエンブレムデザインを募集。2016年4月、応募総数14,599件から、「組市松紋」のデザインが選ばれ「東京2020エンブレム」として決定した。

2017年には、アンバサダーとなるマスコットキャラクターが公募され、応募総数2,042件から最終候補3作品を選定。小学生（日本全国の小学校および海外の日本人学校等）の学級単位による決選投票により、2018年2月にデザインが決まり、同年7月に名前が「ミライトワ」「ソメイティ」に決定した。

また、東京2020大会のメダルは、使用済みの小型家電から得たリサイクル金属を原材料に製作された。

◆エンブレム



くみいちまつもん 組市松紋

歴史的に世界中で愛され、日本では江戸時代に市松模様として広まったチェッカーデザインを、日本の伝統色である藍色で、粋な日本らしさを描いた。

形の異なる3種類の四角形を組み合わせ、国や文化・思想などの違いを示す。

違いはあってもそれらを超えてつながり合うデザインに、「多様性と調和」のメッセージを含め、オリンピック・パラリンピックが多様性を認め合い、つながる世界を目指す場であることを表した。

◆マスコット——史上初、小学生の投票で決定



東京2020オリンピックマスコット

ミライトワ MIRAITOWA

〈名前の由来〉

ミライトワという名前は、「未来」と「永遠（とわ）」というふたつの言葉を結びつけて生まれた。名前に込められたのは、素晴らしい未来を永遠にという願い。東京2020大会を通じて、世界の人々の心に、希望に満ちた未来をいつまでも輝かせる。



東京2020パラリンピックマスコット

ソメイティ SOMEITY

〈名前の由来〉

ソメイティという名前は、桜を代表する「ソメイヨシノ」と非常に力強いという意味の「so mighty」から生まれた。桜の触角を持ち、驚きの強さを見せるソメイティ。東京2020大会を通じて、桜を愛でる日本の心とパラリンピックアスリートの素晴らしさを印象づける。

◆メダル



©Tokyo 2020/shugo takemi

東京2020オリンピック

うら面のデザインは、原石を磨くようなイメージで、光や輝きをテーマとし、輝きの部分は世界中の人々が手をつないでいる様子もイメージしている。おもて面のデザインは、IOCにより、パナシナイコスタジアムに立つ勝利の女神ニケ像、東京2020オリンピック競技大会の正式名称およびオリンピックシンボルの要素を含めた構図と規定されている。



©Tokyo 2020/shugo takemi

東京2020パラリンピック

「扇の要を中心として生み出される新しい風は人々に熱気を与え、また新たな風を生み出す原動力となる」——人々の心を束ね、世界に新たな風を吹き込む「扇」をモチーフにしたデザイン。214件のデザイン案の中から、浦安市出身のデザイナー松本早紀子さんのデザインが採用された。



©Tokyo 2020/shugo takemi

メダルケース

八千代市在住のプロダクトデザイナー吉田真也さんのデザインが公募により決定された。

千葉県内での競技開催が決定

「都市の中心で開催するコンパクトな大会」を目指す東京2020大会では、当初、千葉県内での競技実施は予定されていなかったが、東京2020組織委員会や東京都では、競技会場の建設コストの高騰などから招致段階の会場計画を見直すことを検討していた。

このような動きがある中、2015年4月、東京2020組織委員会の森喜朗会長から千葉県の森田健作知事に対して、幕張メッセ（千葉市）をオリンピックのフェンシング、テコンドー、レスリングの競技会場候補地としたいとの意向が示された。協議や調整が進められた結果、同年6月、IOC理事会において、オリンピック競技のうち、フェンシング、テコンドー、レスリングの3競技を幕張メッセで開催することが決定された。

幕張メッセでの開催決定を受けて森田知事は、「千葉県で3競技が開催されることを心から歓迎します。組織委員会および東京都ならびに各競技団体と緊密に連携を図りながら、大会に向けて、千葉県民の総力を集め“チーム千葉”で取り組んでまいります」とコメントした。

さらに同年11月に、国際パラリンピック委員会（IPC）理事会で、パラリンピック競技のうち、ゴールボール、シッティングバレーボール、テコンドー、車いすフェンシングの4競技も幕張メッセで開催することが決定された。

競技会場に関わるこのような動きとともに、東京2020大会における追加競技をめぐる動きも活発化していた。東京2020大会では、2014年12月のIOC臨時総会で、開催都市による追加競技種目の提案な

どを可能とする「オリンピック アジェンダ2020」が承認され、どの競技が追加されるかが注目された。こうした中、2015年9月に、東京2020組織委員会からIOCへサーフィンを含む5競技を東京大会の追加種目とすることが提案された。

千葉県内では2015年11月、九十九里・外房地域の16市町村長およびサーフィン競技団体各支部長から、県内での開催の実現への協力を求める要望書が県に提出された。これを受けた千葉県は、2016年2月に九十九里・外房地域でのサーフィン競技の開催について東京2020組織委員会に要望を行い、県内でのサーフィン誘致をめぐる熱が一気に高まった。

そして、2016年8月に開催されたIOC総会において、東京2020大会でサーフィンを含む5競技を追加種目として実施することが決まり、同年12月のIOC理事会において、一宮町の釣ヶ崎海岸をサーフィン競技会場とすることが決定された。

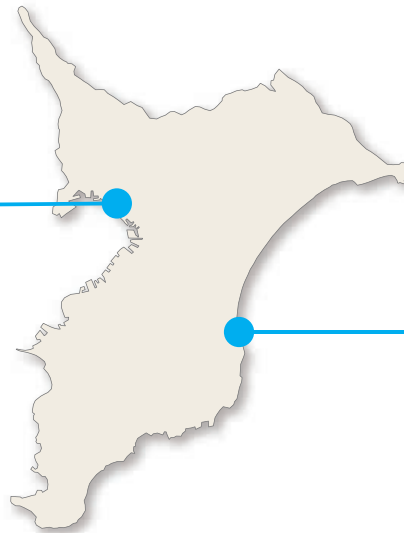
この決定を受けて森田知事は、「オリンピック史上初となるサーフィン競技が本県で開催されることは光栄なことであり、競技会場の誘致を進めてきた地元の皆様と、この思いを分かち合いたいと思います。大会成功に向けて、組織委員会をはじめ、九十九里・外房地域の関係市町村や競技団体等と緊密に連携を図りながら、準備を進めてまいります」とコメントした。

こうして千葉県内では、幕張メッセでオリンピック3競技とパラリンピック4競技の計7競技、釣ヶ崎海岸でオリンピック史上初の開催となるサーフィン競技の実施が決まり、2会場合わせて8競技が行われることとなった。



幕張メッセ

210,000㎡の広大な敷地に、国際展示場、国際会議場、イベントホールを有する日本最大級の複合コンベンション施設。1989年に開設し、近年は、年間900件超の催事が開催され、年間の総来場者数は約700万人に上る。



釣ヶ崎海岸

九十九里浜の南端に位置し、良質な波を求めて多くのサーファーが集まる。大会時は、東京2020組織委員会が県有地等に運営用のプレハブ等の仮設施設を整備し、競技会場の周囲をフェンス等で囲んで競技が実施された。





東京 2020 大会の開催に合わせて新設された国立競技場（オリンピックスタジアム） © USA TODAY Sports /ロイター/アフロ

大会開催の延期

大会開催まで半年余りとなった2019年12月、中国湖北省武漢市において初の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染者が確認された。2020年になると感染は世界中に拡大し、同年3月には世界保健機関（WHO）がパンデミックに至っているとの認識を示した。世界各国ではオリンピック・パラリンピックの代表選考会や国際大会の延期・中止が相次ぎ、国によってはロックダウン（都市封鎖）や外出禁止令が敷かれ、大会を目指す選手たちはトレーニングすらままならない状況となっていった。

日本でも大会開催への懸念が高まる中、オリンピック聖火が古代オリンピック発祥の地ギリシャから日本に到着した直後の2020年3月24日、安倍晋三内閣総理大臣とIOCのトーマス・バッハ会長が電話会談を行い、「大会を概ね1年程度延期、遅くとも2021年夏までに開催する」ことで一致し、東京2020大会は史上初の開催延期となることが決定した。そして同年3月30日には、IOC臨時理事会で、延期後のオリンピックは2021年7月23日に、パラリンピックは同年8月24日に開幕することが決定された。

延期後の競技会場や各競技の実施日程については、2020年4月16日、東京2020組織委員会とIOCの共同声明により「2021年夏の大会は、延期前に決定した競技会場と競技スケジュールを踏襲することが望ましい」とされ、同年7月17日にオリンピック

の競技会場と各競技の実施日程が、同年8月3日にパラリンピックの競技会場と各競技の実施日程がそれぞれ発表された。

千葉県では、両大会の実施日程の変更にあたり、大会開催と経済活動との調和を図ることが重要と考え、関係者と協力して丁寧に調整を進め、準備期間を含む東京2020大会での幕張メッセの施設使用期間のさらなる短縮を実現した。

新型コロナウイルス感染症対策の検討

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が続く中、2020年6月10日、東京2020組織委員会は、大会開催に向けて「安全・安心な環境の提供」「費用の最小化」「大会の簡素化」の3点を基本原則とする新たな方針と大会までのロードマップを発表した。

一方、政府は、感染症対策について総合的に検討・調整するため、同年9月4日、政府を中心に東京2020組織委員会、東京都、JOC、JPCに有識者を加えた「東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議」を立ち上げた。この調整会議は、2021年4月28日までの間に計7回開催され、選手や観客などの区分ごと、また、入国から事前キャンプ、競技会場などの場面ごとに、感染の予防的対策や感染時の対応策などの検討が進められた。

さらに、同年2月から6月までにかけては、選手

や大会関係者等が感染症対策について守るべきルール等を定めた「プレイブック」が作成されるなど、大会開催に向けて新型コロナウイルス感染症対策の具体化が進められていった。

無観客での開催の決定

2020年12月に開催された政府の調整会議における中間整理では、観客数の上限について、最終的な決定は2021年春までに行う方針とされていた。

2021年3月20日、IOC・IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府による五者協議が行われ、海外観客の受け入れについては断念することとなり、国内観客の上限については4月に方向性を決めていくこととされた。

しかし、緊急事態宣言が繰り返し発出されるなど、新型コロナウイルス感染症の影響が続き、オリンピックの国内観客については、開会式の15日前となる同年7月8日の五者協議において、緊急事態宣言の発出が決まった東京都内は無観客での開催となることが決定された。続いて行われた会場自治体との協議において、埼玉県、千葉県および神奈川県についても、新型コロナウイルス感染症対策上、1都3県で足並みをそろえることが必要との考えから無観客とすることが合意された（その後、北海道と福島県についても無観客となった）。

また、パラリンピックについては、同年8月16日、IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府による四者協議で、全競技会場での無観客開催が決定した。

大会前の千葉県の動き

2021年3月25日にスタートしたオリンピック聖火リレーでは、新型コロナウイルスの感染状況から、公道での聖火リレーを中止し、代替措置の実施により聖火をつなぐこととした自治体も少なくなかった。

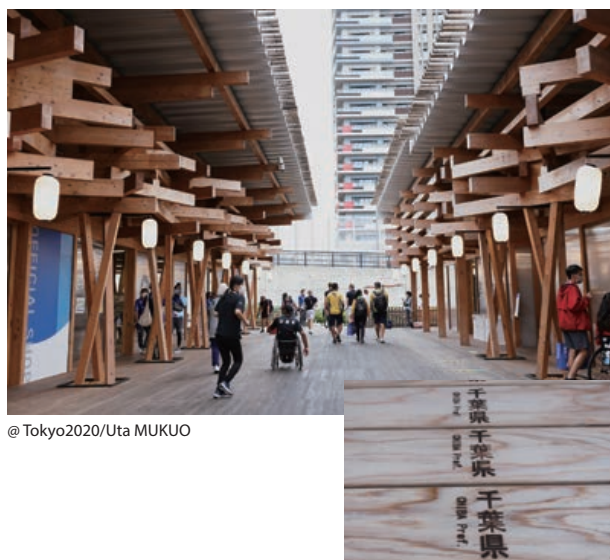
千葉県での聖火リレーは7月であったが、同年5月27日、熊谷俊人知事は、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中では、沿道での観覧者の密集は避けられず、県内全域に人流を発生させ、感染拡大につながる懸念があることから、県内全区間で聖火ランナーの走行を取りやめることを判断し、代替措置として無観客で点火セレモニーを実施するという県としての考え方を発表した。これは、千葉県では、感染拡大につながるような形での聖火リレ

ーの実施はしないというメッセージを県民に発信し、その信頼を得ることが東京2020大会開催に向けて重要と考えたことによるものであった。その後、大会期間中に予定していた東京2020ライブサイト等のイベントについても、同年6月10日に中止を発表した。

また、東京2020組織委員会などによって大会の観客の取り扱いをめぐる議論が進められる中では、安全・安心な大会の実現に向けて都道府県をまたぐ移動や不要不急の外出の自粛など、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための県民への要請内容と大会運営の整合が図られていることが重要であるとの県の考えを示した。

無観客での開催となったことなどにより、大会時に予定していたさまざまな事業が縮小や中止となったが、千葉県では、同年7月15日、県のホームページに特設のページを立ち上げ、聖火リレーのセレブレーションやライブサイトのステージで予定されていた合唱やダンスなどの映像のほか、聖火リレーの沿道飾る予定だった応援メッセージなども掲載した（「声援を届けよう～私たちの東京2020大会 in CHIBA～」についてはp.94参照）。

さらに、無観客の決定から大会までの限られた期間の中、県民が自宅で大会を楽しめるよう、県の公式ツイッターで千葉県にゆかりのある出場選手などの情報を日々発信するとともに、競技の日程や結果を県のホームページで掲載するなど、県全体で選手を後押しする機運をつくれるように取り組んだ。



@Tokyo2020/Uta MUKUO

選手村内に設置された選手たちの交流施設「ビレッジプラザ」日本各地の木材を使用して建てられ、千葉県産木材も使用された。

◆観客の取り扱いをめぐる動きと千葉県の対応

2020年12月2日	<ul style="list-style-type: none"> ■新型コロナウイルス感染症対策調整会議の中間整理（政府・東京2020組織委員会・東京都・JOC・JPC・有識者） 観客数の上限について、国内の上限規制に準じることを基本として、最終的な決定は2021年春までに行う方針
2021年1月7日	<ul style="list-style-type: none"> ■埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言発出（1月8日適用） ※当初は2月7日まで、最終的に3月21日まで延長
3月3日	<ul style="list-style-type: none"> ■五者協議（IOC・IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府） 海外観客の日本への受け入れを3月中に判断することで合意
3月20日	<ul style="list-style-type: none"> ■五者協議（IOC・IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府） 海外観客の日本への受け入れを断念し、4月に国内観客の上限について方向性を決めていく方針を確認
3月25日	<ul style="list-style-type: none"> ■オリンピック聖火リレー 福島県をスタート
4月23日	<ul style="list-style-type: none"> ■東京都に緊急事態宣言発出（4月25日適用） ※当初は5月11日まで、最終的に6月20日まで延長
4月28日	<ul style="list-style-type: none"> ■五者協議（IOC・IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府） 国内観客の上限については、6月に国内のスポーツイベント等における上限規制に準じることを基本に行うことで合意
5月27日	<ul style="list-style-type: none"> ■千葉県がオリンピック聖火リレーでのランナーの走行取りやめを発表
6月10日	<ul style="list-style-type: none"> ■千葉県が東京2020ライブサイト等の実施取りやめを発表
6月21日	<ul style="list-style-type: none"> ■五者協議（IOC・IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府） 観客数の上限を「収容定員50%以内で1万人」とすること、7月12日以降緊急事態宣言等が発動された場合は措置内容を踏まえた対応を基本とすること等を合意
6月23日	<ul style="list-style-type: none"> ■関係自治体等連絡協議会（東京2020組織委員会・政府・会場所在自治体） 6月21日の五者協議における合意内容についての報告等
7月1日～3日	<ul style="list-style-type: none"> ■千葉県内でのオリンピック聖火リレー 3日間とも無観客で点火セレモニーを実施
7月8日	<ul style="list-style-type: none"> ■東京都に緊急事態宣言発出（7月12日適用） ※当初は8月22日まで、最終的に9月30日まで延長 ■五者協議（IOC・IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府） オリンピックについて、東京都への緊急事態宣言を受け、より厳しい措置（一般のイベントは一定のルールのもと観客を入れて開催）として無観客とすること、緊急事態宣言以外の区域は首長と協議の上、具体的な措置を決めること等を合意 ■関係自治体等連絡協議会（東京2020組織委員会・政府・会場所在自治体） 埼玉県、千葉県および神奈川県は、新型コロナウイルス感染症対策上、1都3県で足並みをそろえることが必要との考えから、東京都と同様に無観客へ ↳協議会后、東京2020組織委員会から、無観客となった会場については、学校連携観戦も中止とする方針が示される →その後、北海道（7月9日）、福島県（7月10日）も無観客を決定
7月23日～8月8日 東京2020オリンピック開催	
7月30日	<ul style="list-style-type: none"> ■埼玉県・千葉県・神奈川県に緊急事態宣言発出（8月2日適用） ※当初は8月31日まで、最終的に9月30日まで延長
8月5日	<ul style="list-style-type: none"> ■千葉県がパラリンピック聖火リレーでのランナーの走行取りやめを発表
8月16日	<ul style="list-style-type: none"> ■東京2020パラリンピック競技会場所在自治体懇談会（東京2020組織委員会・政府・会場所在自治体） 四者協議に先立ち、日本側の方針について協議を行い、合意 ■四者協議（IOC・IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府） すべての競技について、より厳しい措置として無観客とすること、学校連携観戦については、保護者等の意向を踏まえて自治体や学校設置者が希望する場合には、安全対策を講じた上で実施可能とすること等を合意
8月18日	<ul style="list-style-type: none"> ■パラリンピック聖火リレー千葉県聖火フェスティバル 無観客で集火式、点火セレモニー・出立式等を実施
8月24日～9月5日 東京2020パラリンピック開催	

※新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言については、埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県状況のみを掲載



学校連携観戦プログラム

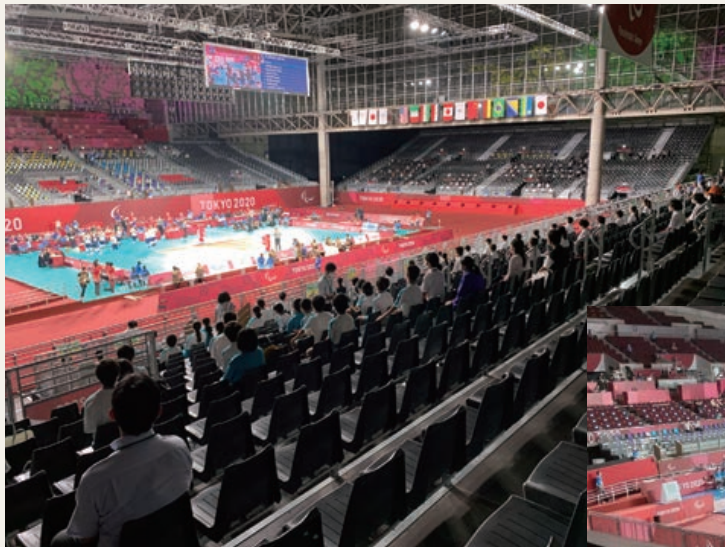
学校連携観戦プログラムは、オリンピック・パラリンピックの競技観戦を通じて、次世代を担う子どもたちに、一生の財産として心に残るような機会を提供するための事業として実施された。東京2020組織委員会が、東京都、競技会場が所在する8道県、東日本大震災の被災3県の小・中学校、高校、特別支援学校を対象に観戦チケットを特別価格で販売し、両大会合わせて計100万人以上の子どもたちが観戦する計画であった。

千葉県では、2020年1月時点において県内約830校から計約10万5,000枚のチケット申し込みがあったが、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、感染への不安等からキャンセルが相次いだ。

こうした状況の中、2021年7月8日には、東京都へ緊急事態宣言を発出することが決定され、同日開催された五者協議において、オリンピックについて東京都内の会場は無観客での開催となることが決定した。また、引き続き開催された関係自治体等連絡協議会において、まん延防止等重点措置が適用されていた埼玉県、千葉県、神奈川県については、新型コロナウイルス感染症対策上、1都3県で足並みをそろえることが必要との考えから、無観客とすることが合意された。この決定に併せて、東京2020組織委員会から、無観客となった会場については学校連携観戦も中止とする方針が示され、1都3県での学校連携観戦は中止することとなった。

パラリンピックについては、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、8月16日に開催された四者協議において、すべての会場が無観客での開催となることが決定した。一方、学校連携観戦については、共生社会の実現に向けた教育的要素が大きいことに鑑み、保護者等の意向を踏まえて自治体や学校設置者が希望する場合には、安全対策を講じた上で実施可能とされた。これを受けて県では、東京2020組織委員会が行う感染防止策に加え、独自の対策を講じた上で学校連携観戦を実施することとし、市町村、学校の意向を確認した上で、8月25日から幕張メッセで開催される競技を子どもたちが観戦した。

しかしながら、引率した学校の教員が、競技観戦後に行った検査で新型コロナウイルスの陽性が確認されるという事態が生じたため、保護者の不安を払拭するさらなる感染防止策に要する時間や教育現場の新たな負担などを考慮し、実施自治体と協議した結果、8月31日以降の学校連携観戦の中止を決定した。なお、8月30日までの6日間で、約3,000人の子どもたちが東京2020大会を観戦した。



パラリンピックで実施された学校連携観戦



千葉県内における競技会場の整備と大会運営への協力

2015年から2016年に、幕張メッセと釣ヶ崎海岸で東京2020大会の計8競技が実施されることが決定して以降、県内では、千葉県や競技会場が所在する千葉市、一宮町などにより、大会開催に向けたさまざまな準備が進められた。

競技会場の整備については、東京2020組織委員会が、競技実施に必要な仮設施設の整備等を行い、競技会場が所在する自治体等が、それぞれ所有する施設に必要な恒久的改修を実施した。

東京2020大会の全会場のうち1施設としては最も多くの競技が開催された幕張メッセは、国内外の展示会やイベントが数多く開催されるアジア有数の複合コンベンション施設である。開設から約30年経過し、施設の老朽化が進行していたことから、千葉県は大規模改修の一環として、老朽化対策とともに、エレベーターの増設、中央エントランス・トイレのリニューアルなどを実施。施設の一部を所有する㈱幕張メッセもイベントホールへのエレベーター増設や、競技会場最寄り駅となるJR海浜幕張駅と幕張メッセをつなぐ連絡デッキを新設するなど、大

会開催時の利便性向上だけでなく、大会後の幕張メッセの利用促進を図るための整備を行った。

また千葉市においては、JR海浜幕張駅南口広場にエレベーター・エスカレーターを新設するとともに、会場周辺の歩道の段差解消を図るなど、関係者が連携の上、大会に向けて幕張メッセおよび周辺のさらなるバリアフリー化を進めた。

オリンピック史上初のサーフィン競技が実施された釣ヶ崎海岸は、県立九十九里自然公園の南端に位置するサーフィンの名所で、国際的な大会も多数開催されている。サーフィンの競技会場は、大部分が保安林などの県有地であり、大会実施にあたっては、千葉県が保安林の再整備をする過程で東京2020組織委員会に土地を貸し出し、また一宮町も、海岸利用者の利便性を向上させるために、トイレやシャワー、多目的スペースを備えた利便施設を整備し、大会時は東京2020組織委員会に活用された。なお、千葉県は大会後、保安林エリアで植樹を進めるとともに、自然公園エリアで駐車場等の整備を進めている。

会場周辺の施設整備としては、釣ヶ崎海岸に向かう観客の円滑な移動を確保するため、一宮町が千葉



JR海浜幕張駅南口広場に新設されたエスカレーターとエレベーター。シェルターも増設された。



幕張メッセの国際展示場展示ホール9～11とJR海浜幕張駅へ続くスカイウェイをつなぐ連絡デッキが新設された。



大会時のJR上総一ノ宮駅東口。新設された跨線橋の壁面等にはオリンピック装飾が施された。



通行止めとされたメッセ大通り。大会時は警備強化のため、幕張メッセの外周に高さ3m程度のセキュリティフェンスが設置された。



幕張メッセ会場周辺では、メッセ大通りの通行止めや大会専用レーンの設置などの交通規制が実施された。



釣ヶ崎会場最寄りに位置する県立長生特別支援学校の駐車場に並ぶ消防車両等。学校の協力により、大会時は県内消防応援部隊の待機場所となった。



大会時のJR海浜幕張駅南口広場。千葉市が幕張メッセまでのラストマイルなどにおいて東京2020大会の装飾を行った。



釣ヶ崎海岸前の県道沿いは、東京2020大会ののぼりと、地域の子どもたちが栽培したひまわりで装飾された。

県の支援や東日本旅客鉄道(株) (JR東日本) 千葉支社の協力のもと、JR上総一ノ宮駅に東口を新設し、エレベーターを設置するなど駅周辺のバリアフリー化を図った。JR東日本千葉支社においても、独自にJR上総一ノ宮駅の駅舎等の改修や西口のバリアフリー化を実施するなど、関係者が連携し、観客を受け入れるための環境整備を行った。

東京2020大会の運営は、東京2020組織委員会によって行われたが、千葉県をはじめ競技会場が所在する千葉市・一宮町や地元警察・消防などの関係機関もそれぞれの立場・役割から、大会の安全かつ円滑な運営に協力した。

安全の確保については、オリンピック・パラリンピックは世界中から注目を集める国際的な大規模スポーツイベントであるため、東京2020組織委員会が行う自主警備や安全対策に加え、千葉県警察を中心に官民が連携し、テロの未然防止に向けた訓練等の各種取り組みを実施したほか、競技会場やその周辺をはじめ、不特定多数が集まる大規模集客施設や公共交通機関等に対する警戒を強化するなどした。テロ等の不測の事態に備え、県内の両競技会場には地元消防等の協力により救急車等が配備され、釣ヶ崎海岸においては、県内18の消防(局)本部が連

携し、県内初の大規模な広域応援体制を構築するなど、安全な大会運営の実現に協力した。競技会場のほか、成田空港においても県内の11消防本部が連携し、警戒を強化した。

また、選手や大会関係者の移動により、高速道路や会場周辺の道路等で混雑が懸念されていたことから、競技会場周辺の交通規制をはじめ、東京2020組織委員会が行う各種交通対策について、千葉県および千葉県警察等が連携しながら、県内の経済団体や会場周辺の企業や住民に対して交通対策への理解・協力を呼びかけるなど、円滑な大会運営の確保に協力した。

さらに、大会期間中は、東京2020組織委員会内に大会運営情報を統括するメインオペレーションセンターが設置され、国や競技会場が所在する自治体等と幅広い情報を共有・伝達する体制が敷かれた。千葉県も東京2020組織委員会との情報連携として、千葉市や一宮町と連携しながら、災害、ライフライン、道路、公衆衛生などの都市情報と、東京2020組織委員会が有する大会運営に関わる情報の共有を図ったほか、競技会場の所有者としての危機管理を行い、競技会場が所在する自治体の立場から、安全、円滑の両側面から大会運営をサポートした。

東京2020オリンピック聖火リレー

東京2020オリンピック聖火リレーは、東京2020大会の延期を受けて、当初予定のおよそ1年後となる2021年3月25日、福島県のナショナルトレーニングセンター「ヴィレッジ」においてグランドスタート。グランドスタートの第一走者は「2011FIFA女子ワールドカップ」で優勝したサッカー女子日本代表「なでしこジャパン」のメンバーが務めた。

その後、聖火リレーは、新型コロナウイルスの感染状況から、一部の自治体では公道等でのリレー中止を余儀なくされたものの、「Hope Lights Our Way / 希望の道を、つなごう。」をコンセプトに114日（移動日含め121日間）をかけて約1万人の聖火ランナーが47都道府県で聖火をつないだ。



千葉県最初の聖火ランナー
1996年アトランタオリンピックで陸上女子10000mに出場した千葉真子さん



トーチキスを盛り上げるグループランナー

千葉県のオリンピック聖火リレー

2021年5月27日、千葉県では新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、終盤に実施する首都圏の自治体では初めてオリンピック聖火リレーの聖火ランナーの走行中止を判断した。

千葉県での聖火リレーは、2021年7月1日から3日までの3日間で実施し、当初は東京湾アクアラインのパーキングエリア「海ほたる」からスタートして、競技会場の釣ヶ崎海岸や幕張メッセ周辺など県内各地を、計258人・グループが走る予定であった。

この当初予定していた聖火ランナーの走行による聖火リレーに代えて、7月1日は県立蓮沼海浜公園第2駐車場（山武市）、2日は幕張メッセ駐車場（千葉市）、3日は松戸中央公園（松戸市）の各セレブレーション会場において、無観客で点火セレモニーを実施した。

237人の聖火ランナーがそれぞれの思いを込めてつないだ聖火は、最終日の7月3日、松戸中央公園で本県でのグランドフィナーレを迎え、希望の光として茨城県へと引き継がれた。

トーチキスで次の聖火ランナーに聖火をつなぐ
右は1984年ロサンゼルスオリンピックで女子マラソンに出場した増田明美さん



千葉県最後の聖火ランナーによる聖火皿への点火

セレブレーション会場と当初予定していたオリンピック聖火リレールート

3日目

歴史・伝統文化と先進的まちづくりが融合した
活気あふれる都市をアピールするルート

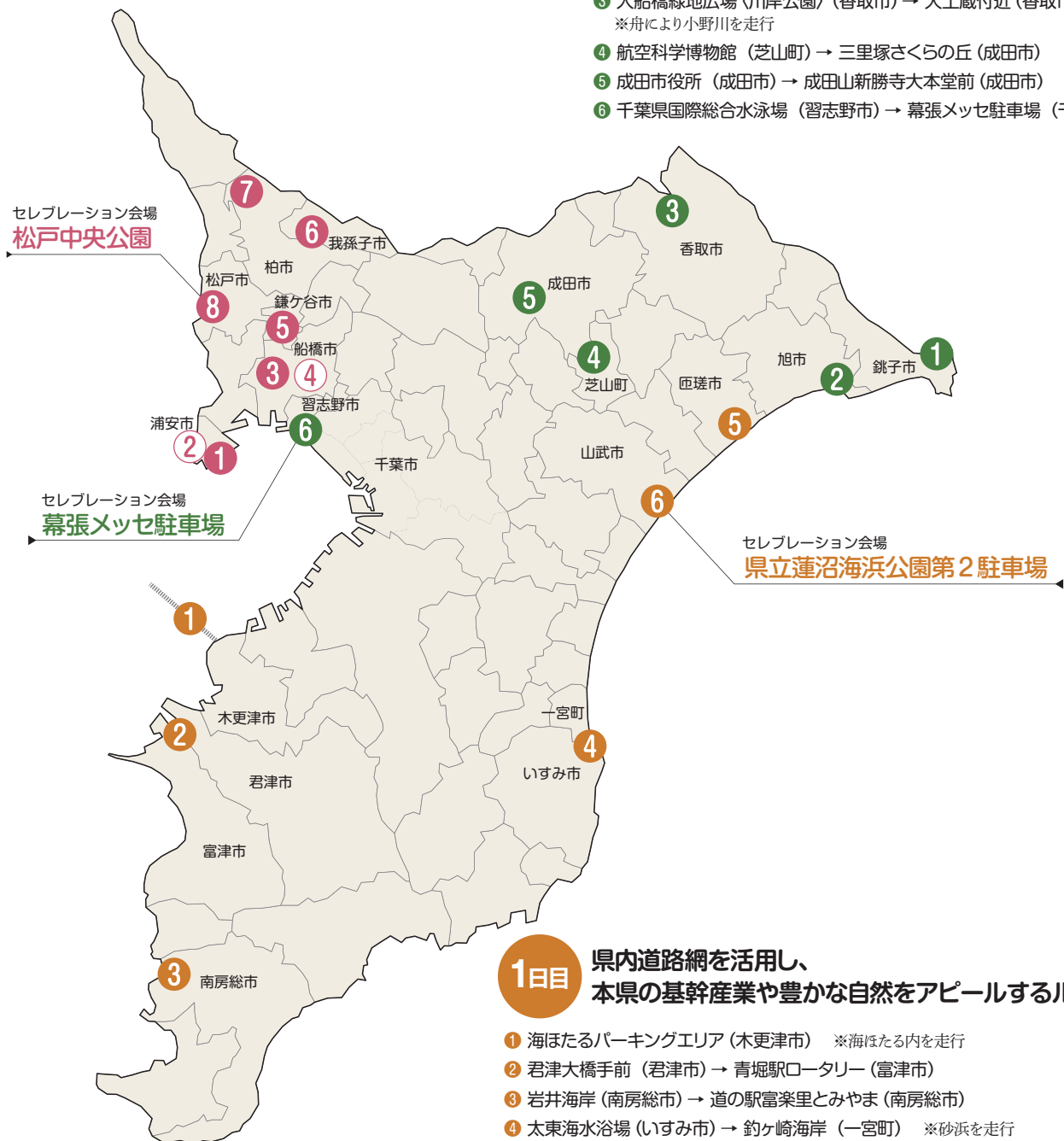
- ① シンボルロード交流広場（浦安市）→ 浦安市総合公園展望デッキ（浦安市）
- ② NTTコミュニケーションズラグビーグラウンド（アークス浦安パーク）（浦安市）
- ③ 行田運動広場（船橋市）→ 船橋市保健福祉センター前（船橋市）
- ④ NTT船橋グラウンド（船橋市）
- ⑤ 鎌ケ谷市役所（鎌ケ谷市）→ 新鎌ふれあい公園（鎌ケ谷市）
- ⑥ 道の駅しょうなん（柏市）→ 手賀沼公園（我孫子市）
- ⑦ 県立柏の葉公園（柏市） ※公園内を走行
- ⑧ 松戸市小山地区（松戸市）→ 松戸中央公園（松戸市）

※②、④は東京2020組織委員会および関係機関が実施する区間

2日目

本県の魅力あふれる歴史・伝統文化や
国際都市をアピールするルート

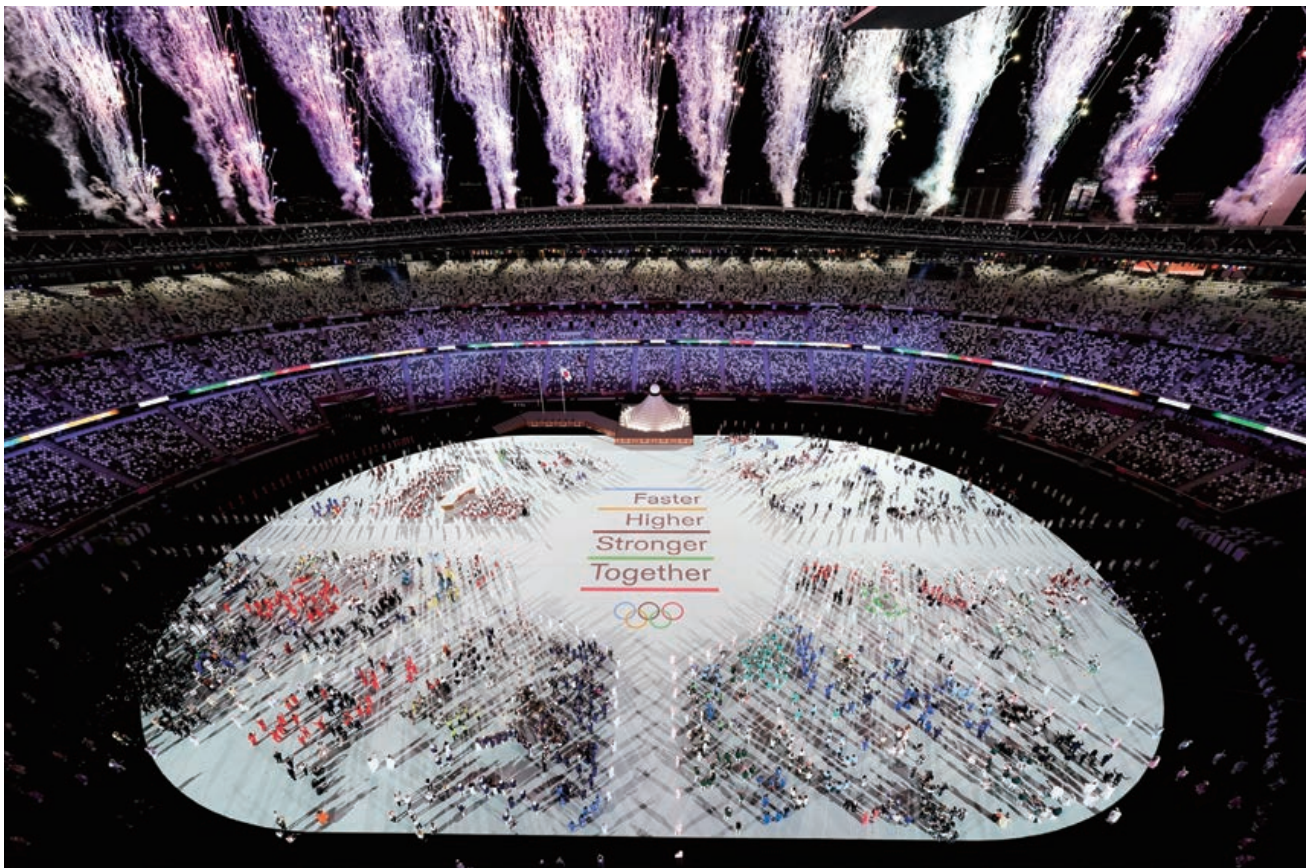
- ① 銚子ポートタワー（銚子市）→ 銚子市役所（銚子市）
- ② いいおかみなと公園（旭市）→ いいおかユートピアセンター（旭市）
- ③ 入船橋緑地広場（川岸公園）（香取市）→ 大土蔵付近（香取市）
※舟により小野川を走行
- ④ 航空科学博物館（芝山町）→ 三里塚さくらの丘（成田市）
- ⑤ 成田市役所（成田市）→ 成田山新勝寺大本堂前（成田市）
- ⑥ 千葉県国際総合水泳場（習志野市）→ 幕張メッセ駐車場（千葉市）



1日目

県内道路網を活用し、
本県の基幹産業や豊かな自然をアピールするルート

- ① 海ほたるパーキングエリア（木更津市） ※海ほたる内を走行
- ② 君津大橋手前（君津市）→ 青堀駅ロータリー（富津市）
- ③ 岩井海岸（南房総市）→ 道の駅富楽里とみやま（南房総市）
- ④ 太東海水浴場（いすみ市）→ 釣ヶ崎海岸（一宮町） ※砂浜を走行
- ⑤ 匝瑳市立野栄中学校（匝瑳市）→ 野栄ふれあい公園（匝瑳市）
- ⑥ 蓮沼交流センター（山武市）→ 県立蓮沼海浜公園第2駐車場（山武市）



オリンピック開会式

© AP / アフロ



上：日本選手団の入場行進

© 長田洋平 / アフロスポーツ

中：「動くスポーツピクトグラム」のパフォーマンス

右：東京2020オリンピックの聖火台へ点火する最終聖火ランナーの大坂なおみ選手（テニス）



© AFP / アフロ



© 新華社 / アフロ

東京2020オリンピック競技大会

2021年7月23日、新型コロナウイルスの感染拡大で史上初めて1年延期となった東京2020オリンピック競技大会が開幕した。

新設された国立競技場において、午後8時から無観客で開催された開会式には、選手約6,000人が参加した。

入場行進では、オリンピック発祥の地ギリシャを先頭に、あざやかな民族衣装を身にまとったり、国旗をデザインしたマスク、公式ブレザーを着用した

りするなど、さまざまな姿の選手団等の行進が日本の有名なゲームの音楽に合わせて行われ、日本選手団ではレスリングの須崎優衣選手（松戸市出身）とバスケットボールの八村塁選手が旗手を務めた。

「United by Emotion（感動で、私たちは一つになる）」をコンセプトとする開会式の中では、日本の伝統文化やスポーツピクトグラムを活用したパフォーマンスなどが披露された。

そして、富士山とその上に輝く太陽をモチーフにした聖火台に聖火が灯され、大会が幕を開けた。

大会には、206カ国・地域から11,417人の選手（難民選手団を含む）が参加。開催地の東京は緊急事態宣言下にあったが、大会では、選手等に対する行動制限をはじめとする新型コロナウイルス感染症対策や競技の開始時間を変更するなどの暑さ対策等を講じながら、史上最多の33競技339種目が実施された。

日本からは過去最多の583人の選手団が結成され、金27、銀14、銅17の計58個とアメリカ、中国に次ぐ数のメダルを獲得。日本勢が新競技のスケートボードやサーフィンなどで活躍したほか、千葉県ゆかりの選手も、体操競技の橋本大輝選手が個人総合と種目別鉄棒の2種目で金メダル、レスリングの須崎優衣選手と柔道のウルフアロン選手もそれぞれ金メダルに輝くなど、見事な活躍を見せた（オリンピックにおける千葉県内開催競技の様子と千葉県ゆかりの選手の活躍についてはp.36参照）。

8月8日の午後8時から国立競技場で始まった閉会式には、選手約4,500人が参加した。

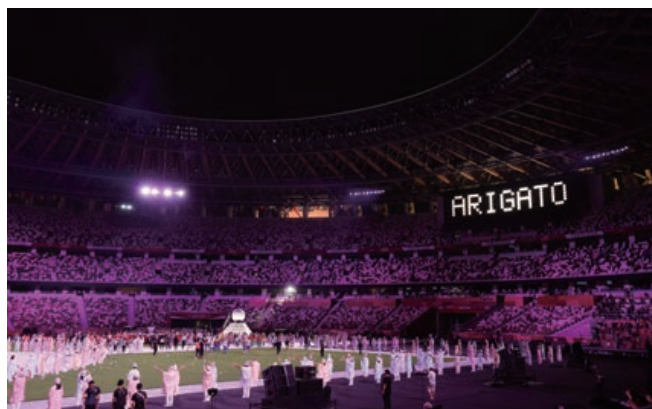
「Worlds we share（一人ひとりの持つ異なる世界を共有しあって生きている）」をコンセプトとする閉会式の中では、各地の伝統的な踊りなどのパフォーマンスのほか、選手村や競技会場で大会運営を支えたすべてのボランティアに対して感謝を伝えるセレモニーも行われた。

閉会式の終盤には、東京都の小池百合子知事から、IOCのトーマス・バッハ会長を経て2024年開催都市パリのアンヌ・イダルゴ市長に五輪旗が引き継がれた。午後10時過ぎに聖火台の聖火が消されると競技場の上空に花火が打ち上がり、場内の大型スクリーンに「ARIGATO」の文字が大きく映し出され、東京2020オリンピック競技大会は17日間の日程を終えて閉幕した。



閉会式でステージを囲むように整列した選手

©ロイター/アフロ



©青木紘二/アフロスポーツ

聖火台の火が消されると競技場の上空に花火が打ち上げられ、場内の大型スクリーンに「ARIGATO」の文字が大きく映し出された。



©ロイター/アフロ

閉会式に出席したアーティスティックスイミング日本代表「マーメイドジャパン」（4位入賞）右から3番目が大網白里市出身の塚本真由選手

東京2020パラリンピック聖火リレー

東京2020パラリンピック聖火リレーは、2021年8月12日から16日にかけて、パラリンピック競技開催4都県（東京都・埼玉県・千葉県・静岡県）を除く43道府県で「採火」「出立式」などを開催。17日から20日には、競技開催4都県で聖火リレーも加えて実施されるなど、「聖火フェスティバル」が展開された。8月20日に迎賓館赤坂離宮（東京都港区）で「集火式」が実施され、全国各地で採火された火が一つとなって誕生した「東京2020パラリンピック聖火」が21日から24日にかけて、開催都市の東京都内で聖火ランナーによってつながれた。

東京2020パラリンピック聖火リレーは「Share



船橋市での採火



東金市での採火

集火式で「市町村の火」を一つに合わせて「千葉県の火」とした。



3人一組の聖火ランナーによる次の聖火ランナーへのトーチキス



聖火皿に「千葉県の火」を灯す千葉県最後の聖火ランナー

Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。」のコンセプトに基づき、人と人、人と社会との、「新しいパートナーシップ」を考えるきっかけとなることを目指し、原則として「はじめて出会う3人」がチームになって行われた。

千葉県のパラリンピック聖火リレー

千葉県は、千葉市内の全5区間でパラリンピック聖火リレーを実施し、約150人が聖火をつなぐ予定であったが、2021年8月5日、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、聖火ランナーの走行を取りやめ、公道での聖火リレーに代えて無観客で点火セレモニーを実施することを発表した。

8月18日、県内の全市町村が独自の 방법으로採火した「市町村の火」を市原スポレクパーク（市原市）での集火式で一つに合わせて「千葉県の火」とし、千葉ポートタワー前広場（千葉市）で点火セレモニーを実施。聖火ランナーは、オリンピック聖火リレーと同様にステージ上で聖火をつなぎ、点火セレモニー終了後に行われた「出立式」において「千葉県の火」を開催都市である東京都に送り出した。

当初予定していたパラリンピック聖火リレールート



県立市川工業高校の生徒が デザインした「点火棒」

千葉県では、市町村が「市町村の火」をランタンに移す場面や集火式において「市町村の火」から「千葉県の火」を作る場面などで使用する点火棒のデザイン作成を、県内の高校で唯一インテリア科を有する県立市川工業高校に依頼した。

《点火棒のコンセプト》

- ◆パラリンピックのシンボルマーク（スリーアギトス）に着目して光の3原色（赤・青・緑）を使用
- ◆県の花である「菜の花」をモチーフとした風車を配置
- ◆鈴により目の不自由な方も知覚できるよう工夫





© AP / アフロ



© ロイター / アフロ

車いすテニスの国枝慎吾選手とゴールボールの浦田理恵選手が主将・副主将として選手宣誓を行った。



© AP / アフロ

最終聖火ランナーの車いすテニスの上地結衣選手、ポッチャの内田峻介選手、パワーリフティングの森崎可林選手の3人が共に火を灯した。

上：パラリンピック開会式
左：「片翼の小さな飛行機」の物語

東京2020パラリンピック競技大会

オリンピックの閉幕からおよそ2週間後の2021年8月24日、東京2020パラリンピック競技大会が開幕した。同一都市で夏季大会が二度開催されるのは初めてのことであった。

午後8時から国立競技場で開催された開会式には、選手約3,400人が参加した。難民選手団を先頭に入場行進が始まり、日本選手団ではトライアスロンの谷真海選手と卓球の岩渕幸洋選手が旗手を務めた。

「WE HAVE WINGS（私たちには翼がある）」をコンセプトとする開会式の中では、「片翼の小さな飛行機」の物語の演出やダンスパフォーマンスなど



© 新華社 / アフロ

が披露された。

聖火台には、最終聖火ランナーを務めた3人の選手により聖火が灯され、大会が幕を開けた。

パラリンピックは、障害の種類や程度によってクラス分けされており、22競技539種目と種目数が多い。大会には、163カ国・地域から4,403人の選手(難

民選手団を含む）が参加し、運動機能障害（肢体不自由）、視覚障害、知的障害など、さまざまな障害のある選手が日々積み重ねてきた努力の成果を発揮した。

日本からは254人の選手団が結成され、金13、銀15、銅23の計51個と、2004年アテネ大会の52個に次ぐ数のメダルを獲得。新種目のバドミントンで里見紗李奈選手がシングルスとダブルスの2冠を達成し、車いすテニスの国枝慎吾選手がシングルスで金メダル、水泳の鈴木孝幸選手が出場全種目で金メダルを含む計5個のメダルを獲得するなど、千葉県ゆかりの選手が躍進した（パラリンピックにおける千葉県内開催競技の様子と千葉県ゆかりの選手の活躍についてはp.62参照）。

9月5日の午後8時から国立競技場で始まった閉会式には、選手約2,000人が参加した。

「Harmonious Cacophony（違いが輝く世界）」をコンセプトとする閉会式の中では、「すべての違いが輝く街」の演出などが披露されたほか、「I'mPOSSIBLEアワード」の表彰も行われ、千葉県内の2つの学校が受賞した（p.173参照）。

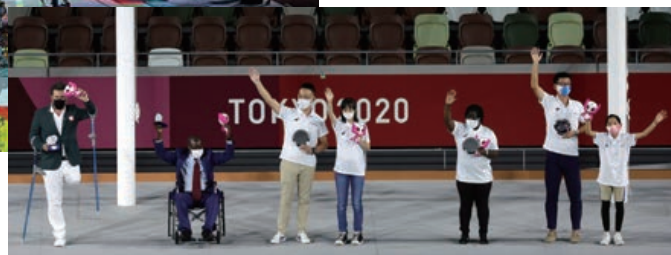
式典の終盤には、パラリンピックのシンボルマークである「スリーアギトス」の旗が、東京都の小池百合子知事から、IPCのパーソンズ会長を経て、2024年開催都市パリのアンヌ・イダルゴ市長へ引き継がれ、パーソンズ会長が「ありがとう、東京」と日本語でメッセージを発した。午後10時過ぎ、聖火台の聖火が消されると、競技場の上空に花火が打ち上がり、場内の大型スクリーンに「ARIGATO」、そしてフィールドに「SEE YOU IN PARIS 2024」の文字が大きく映し出され、東京2020パラリンピック競技大会は13日間の日程を終えて閉幕した。



未完成の東京の街に、旗手たちが「輝き」を象徴する鏡を貼り付けていき、最後は東京スカイツリーをデザインした模型を立ち上げ、「すべての違いが輝く街」が完成した。

提供：Joe Toth / IOC / OIS / アフロ

「I'mPOSSIBLEアワード」で表彰された「開催国最優秀賞」の木更津市立清見台小学校（写真右）と「開催国特別賞」の県立東金特別支援学校（写真中央）



©ロイター／アフロ



フィールドに映し出された「SEE YOU IN PARIS 2024」の文字

©三船貴光／フォート・キシモト



千葉県のアスリート強化・支援事業

千葉県は、東京2020大会に出場する千葉県ゆかりの選手を一人でも多く輩出することを目指し、2014年度から主にジュニア世代や障害者スポーツ選手を対象とした強化・支援事業を開始した。東京2020大会のオリンピック開催33競技^{▶1}、パラリンピック開催22競技^{▶2}に出場可能な年齢で有望なアスリートを指定し、外部指導者活用、スポーツ医・科学サポート、競技用具の整備、海外遠征、国際大会の視察、国内遠征、強化合宿、選手・チームの招へいなどの取り組みに対する助成を行った。

2014年度は「めざせ東京オリンピックちばジュニア強化事業」として、東京2020大会柔道男子100kg級で金メダルを獲得したウルフアロン選手、体操男子団体で銀メダルを獲得した萱和磨選手、谷川航選手などを特別強化の選手に指定した。

また、2015年度から実施した「東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業」では、パラアスリートの指定も開始。パラリンピック競技の特別強化指定選手として、東京2020大会車いすテニス男子シングルスで金メダルを獲得した国枝慎吾選手、車いすバスケットボール男子で銀メダルを獲得した香西宏昭選手、川原凜選手などを指定し、アスリートの育成や強化を図った（千葉県ゆかりの選手の競技結果については資料編p.252参照）。

- ▶1 水泳競技、アーチェリー、陸上競技、バドミントン、野球・ソフトボール、バスケットボール競技、ボクシング、カヌー、自転車競技、馬術、フェンシング、サッカー、ゴルフ、体操、ハンドボール、ホッケー、柔道、空手、近代五種、ボート、ラグビー、セーリング、射撃、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィン、卓球、テコンドー、テニス、トライアスロン、バレーボール競技、ウエイトリフティング、レスリング
- ▶2 アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、カヌー、自転車競技、馬術、5人制サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、ボート、射撃、シットイングバレーボール、水泳、卓球、テコンドー、トライアスロン、車いすバスケットボール、車いすフェンシング、車いすラグビー、車いすテニス



「東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業」強化指定証授与式（2019年度）